

# 令和5年度 北上市大学設置基本調査 報告資料

# 本調査の概要

## 目的

令和4年度までの調査・研究を踏まえ、理工系人材の確保・育成を目的とする新しい大学の設置にむけて必要な事項を調査し、北上市における大学設置可否を判断するための基礎資料を取りまとめる。

## 調査方法

これまで北上市が実施した調査・研究内容と文献資料の分析に加え、岩手県内の高等学校に在籍する高校2年生とその保護者、並びに岩手県内の高等学校の進路指導担当教員に対して、北上市への大学設置に関するアンケート調査を行った。

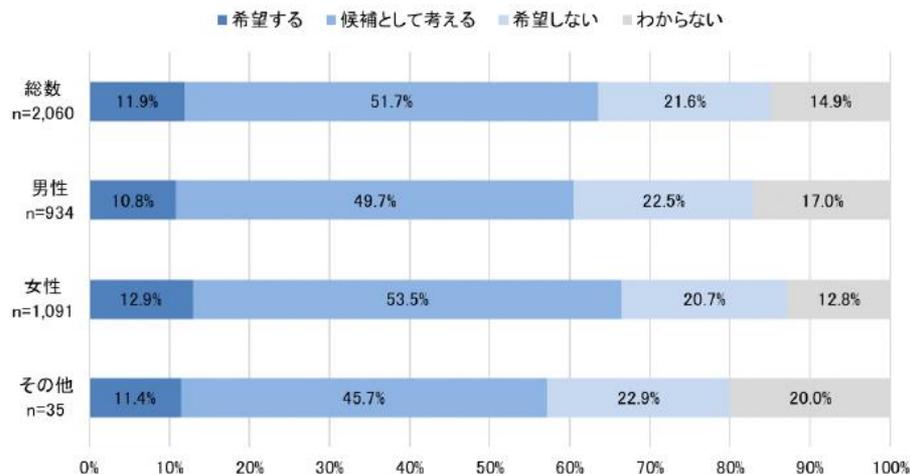
アンケートの回答数は、高校2年生4,029人（回答率40.6%）、保護者999人（10.1%）、進路指導担当教員66人（74.2%）だった。

# ポイント 1 大学の必要性①

## 入口側の環境

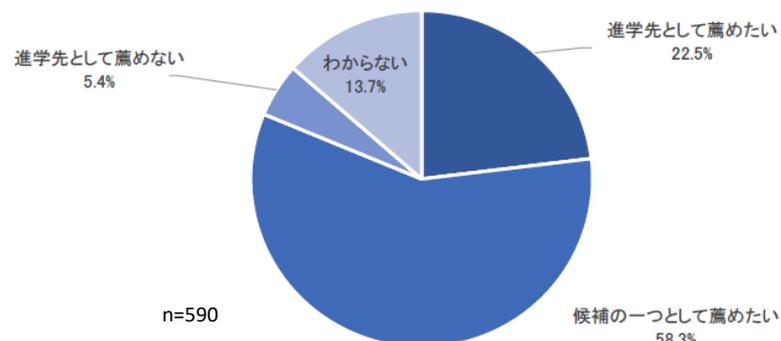
- ・岩手県における18歳人口あたりの県内所在大学への入学者数（大学収容率）は22.9%と、都道府県別で41位、北東北3県でも最下位で、大学定員は他の都道府県に比べて少ない。
- ・アンケート結果によると、高校生の進学希望者が最も多い分野は工学（18.8%）であるが、その一方で、県内大学の工学系の入学定員（600人）は、工学系大学への進学希望者の推計値（953.2人）を下回っている。
- ・県内の高校のうち、32校から毎年複数人の生徒が新設大学を志願することが予想される。
- ・生徒の63.6%、保護者の80.8%が、北上市内の大学への進学を前向きにとらえている。

Q もし、あなたが進学を希望する学部や学科等がある大学が北上市に設置されたら、あなたはその大学への進学を希望しますか。



出典：北上市への大学設置に関するアンケート調査（高校2年生）

Q もし、お子さんの進学先として、あなたが進学を薦めたい学部や学科等がある大学が北上市に設置されたら、あなたはお子さんにその大学への進学を薦めますか。



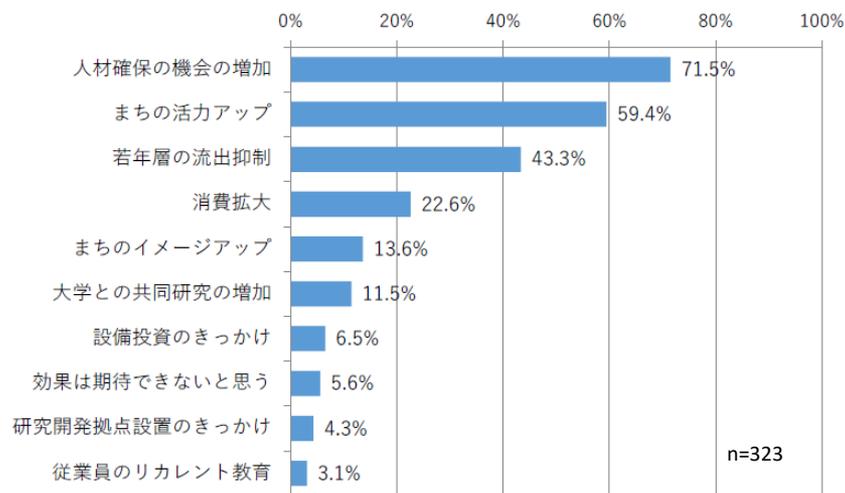
出典：北上市への大学設置に関するアンケート調査（保護者）

# ポイント 1 大学の必要性②

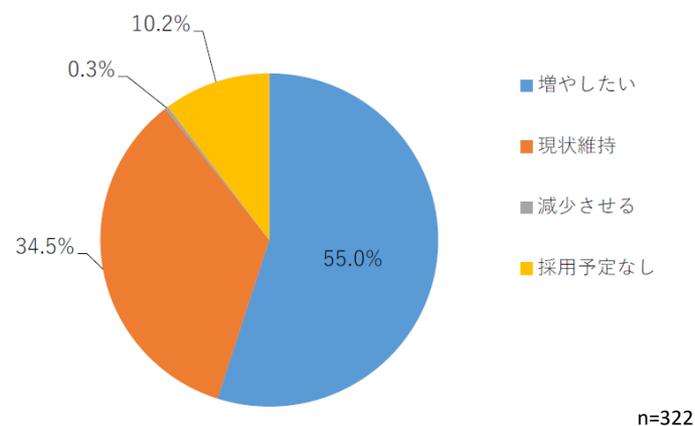
## 出口側の環境

- ・企業の成長を後押しする広い知見を持つ人材や生産を支えるデジタル人材が求められている。
- ・地域で求められている大学の専門分野は機械工学、電気・電子工学、情報工学、材料工学、化学など。
- ・企業の71.5%が大学の開設が人材確保に繋がることを期待している。
- ・企業の59.4%が大学の開設がまちの活力アップに繋がることを期待している。
- ・企業の55.0%が大卒新卒者の採用を増やしたいと回答している。
- ・企業の49.8%がインターンシップ受け入れに積極的な姿勢。

Q 岩手県南エリアに大学が置かれた場合、貴社や、まちの姿にどのような効果があると思いますか。 [3つまで]



Q 貴社における今後の大学新卒者（大学院卒を含む）の採用意欲は次のどれに近いですか。



出典：大学設置に関する経営者層デマンド調査

出典：大学設置に関する経営者層デマンド調査

# ポイント 1 大学の必要性③

## 国の政策動向

- ・国は、理工系分野をはじめとする成長分野をけん引する人材の育成を強化している。
- ・大学・高専機能強化支援事業を活用することで、成長分野を学べる学部の開設に対し、最大20億円の助成を受けられることができる。

### 大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）

令和4年度第2次補正予算額 3,002億円

#### 事業創設の背景

- ・デジタル化の加速度的な進展や脱炭素が世界的な潮流は、労働需要の在り方にも根源的な変化をもたらすと予想。
- ・デジタル・グリーン等の成長分野を担うのは理系人材であるが、日本は理系を専攻する学生割合が諸外国に比べて低い。

※ 理系学部の学位取得者割合

【国際比較】 日本 35%、仏 31%、米 38%、韓 42%、独 42%、英 45%

【国内比較】 国立大学 57%、公立大学 43%、私立大学 29%

(注) 「理・工・農・医・歯・薬・保健」及びこれらの学際的なものについて「その他」区分のうち推計

- ・デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行うためには、大学・高専が予見可能性をもって取り組めるよう、基金を創設し、安定的で機動的かつ継続的な支援を行う。

出典：文部科学省「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」より抜粋

## 必要性まとめ

- ・工学系大学の新設は、若年層の流出抑制に有効であると考えられる。
- ・企業とインターンシップなどで協力関係を築くことができれば、学生が地元を知る機会を増やすことができ、地域の人材不足を解決できる可能性がある。
- ・高校生と企業のニーズは整合しており、さらに国の政策動向とも合致している。

# ポイント 2 大学の方向性①

## 分野

- ・アンケート結果によると、進学希望者が最も多い分野は、高校生、保護者、進路指導担当の先生いずれも工学。（高校生は18.8%、保護者は18.3%、進路指導担当の先生は46.2%だった。）
- ・地域で求められている大学の専門分野は、機械工学、電気・電子工学、情報工学、材料工学、化学など。
- ・大学等設置検討会議において、1学部1学科を評価する意見があった。

## 設置形態

- ・主な着眼点としては、出発点である市の課題解決に資するか、学生確保、安定経営、財政負担がある。
- ・自ら設置しようとした場合は課題解決、学生確保、安定経営の面で優位だが、市の財政負担が生じる。
- ・誘致は市の財政負担が軽減される面で優位と考えられるが、課題解決、学生確保、安定経営の点でリスクが潜む。
- ・アンケート結果によると、生徒の76.0%、保護者の77.8%が国公立を希望しており、経済的な負担が少ない形での進学希望が多い。

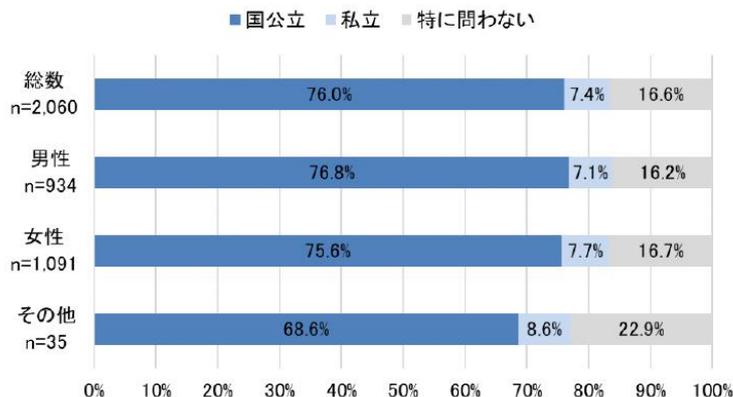
## 場所

- ・通年で大学へのアクセスが容易であることは重要な視点。学生や教職員の確保に直結する。
- ・アンケート結果によると、通いたいと思う大学のキャンパスのイメージは、まちなかと郊外の比較だと、まちなかが81.0%で、郊外が19.0%だった。

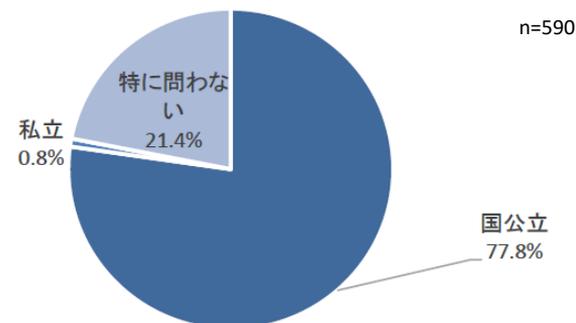
## ポイント 2 大学の方向性②

Q あなたが進学先を決める際、特に希望する設置主体を教えてください。

Q お子さんの進学先を決める際、あなたが特に希望する設置主体を教えてください。



出典：北上市への大学設置に関するアンケート調査（高校2年生）



出典：北上市への大学設置に関するアンケート調査（保護者）

### 方向性まとめ

※現段階では、以下の方向性が望ましい

- ・ 出入口の状況から工学とし、大学等設置検討会議の意見を踏まえ、1学部1学科編成とする。
- ・ 地域課題の解決、学生確保、安定運営の観点から、設置形態を市立とする。
- ・ 学生や教職員の確保の観点から、大学を市街地に設置する。にぎわいの波及も期待。

# ポイント 3 大学の実現可能性

## 学生確保の見通し

- ・アンケート結果から、県内から76.3人から135.4人の生徒が、新設大学に進学すると想定される。
- ・北上市の交通の便の良さから、県外から新設大学に進学する生徒が一定数いると考えられる。
- ・大学の開設により、今まで県外の大学に進学していた生徒が、新設大学に入学する可能性がある。
- ・大学の開設により、経済的事情で大学進学を断念していた生徒が、新設大学に入学する可能性がある。

## 経営面での実現可能性

- ・入学定員を80人以上にした場合、市財政への影響を最小限に抑えて、大学を経営できると見込まれる。
- ・大学の設置費用として約82億円から99億円が必要と考えられるが、大学・高専機能強化支援事業など国の支援や企業版ふるさと納税制度等を活用することで、大学設置に伴う財政負担を軽減できる。

設置経費と運営収支の試算結果

入学定員	設置経費 (百万円)	経常利益(百万円)							
		開学1年度	開学2年度	開学3年度	開学4年度	開学5年度	開学6年度	開学7年度	開学8年度
60	7,707	-90	-83	-114	-93	-93	-93	-93	-93
80	8,222	2	-4	-27	2	2	2	2	2
100	8,737	37	48	23	58	58	58	58	58
120	9,931	61	73	45	88	88	88	88	88

市立大学を設置した場合、大学の経営を健全化するために必要な入学者数（80-120人）を、確保できる見込みは高いと考えられる。

# ポイント 4 大学の開設が北上市にもたらす効果

## 経済効果

- ・ 入学定員を80人以上とした場合、大学施設の建設開始から開学8年度までの期間に、約136億円から193億円の経済波及効果が見込める。

### 経済波及効果の分析方法

活動の種類	概要
教育・研究活動による効果	教科書や研究資材の購入、研究機器の使用等にかかる支出
教職員・学生の消費による効果	教職員や学生による消費
その他の活動による効果	オープンキャンパスや学園祭など大学イベントの来訪者による消費
施設整備にかかる効果	校舎の新設

### 経済波及効果の推定

入学定員	経済波及効果 (総生産誘発額・百万円)
60	12,408-14,233
80	13,586-15,421
100	14,878-16,835
120	17,122-19,321

## 上記以外の期待

若年層の流出抑制

施設開放や公開講座による  
市民の生活の満足度向上

大学内外、大学間の  
イベントの開催

高度人材の育成

学生と市民の交流の深化による  
ウェルビーイングの向上

交流人口の増加

にぎわいの増加

シビックプライドの醸成

関係人口の創出

# 調査結果まとめ

1. 工学系大学を設置することは、まちの課題解決のために有効な手段であり、県内高校生や地域企業のニーズ、国の政策動向に合致したものである
2. 工学を学ぶことができる1学部1学科編成の市立大学を、交通アクセスの良い市街地に設置することが推奨される
3. 大学の経営の健全化のために必要な入学者数（80人から120人）を、新設大学が確保できる可能性は高い
4. 大学の新設は、地域経済の活性化だけでなく、まちなかのにぎわいや都市ブランドの向上など、様々な効果を北上市にもたらすことが予想される
5. 市立大学の場合は、安定的な学生確保を見込むことができ、過剰な投資（建物の数など）をしなければ、市の財政負担を最小限に抑えた形で、大学経営の採算はとれると考えられる